**SW-ing「事実と意見」**

Ⅰ　授業の目的

【本日の目標】

　　情報を収集するときや文章を読み書きするときに事実と意見を区別することの必要性を理解する

【最終的に身に付けたい力（SW-ingSLC）】

　情報分析力：情報を取捨選択することができる

～～図を見て考えたことを事実と意見に分けてみよう～～

|  |  |
| --- | --- |
| 　事　　実 | 意　　見 |
|  |  |
| 事実は調査や実験によって確認が可能で誰でも経験できる物事である。事実を記述した文は正しい（本当）か間違い（ウソ）かのどちらかである。このニンジンは50円です(正しいかどうかを確認できる) | 自分の判断や考えという個人的なものであり，調査や実験で確認できないことがある。複数の評価が存在する。このニンジンは安い(人によって感じ方が違う) |

学術的文章（論文・レポート等）では「問題提起」「根拠のある問題に対する答」「根拠を裏付けるための証拠」という構成要素があります。説得力のある文章にするためにはしっかりとした根拠を示すことが必要であり，そのためには事実と意見を区別することも重要です。正しい事実を組み合わせることで意見の証拠や根拠となるのです。正しいかどうか分からない意見を組み合わせても本当の根拠にはならないのです。

また，情報を収集するときにもこの態度は必要です。ネットや本に書かれていることをすぐに信じ込むのではなく，事実なのか，書き手の意見に過ぎないのかということを見極めながら記事の信憑性をチェックすることも必要です。

【練習問題１】～～事実を正確に伝える～～

Ｃ国でサッカーのワールドカップがありました。Ａ国とＢ国の予選リーグの試合の様子をそれぞれの国が伝えた新聞記事です。

①　B国は決勝リーグへの進出はできず，何枚のイエローカードをもらっても影響がない試合だった。そんな中，A国選手がプレーした後に体を激しくぶつけてくるというようなB国選手のラフプレーが目立っていた。審判は，落ちついて試合をさばいているように見えたが，そのようなプレーにイエローカードを出すことはなかった。最終的にB国に5枚のイエローカードを出していたが，それでもまだ少ないと感じられる内容だった。

②　審判はB国に対してとても厳しい判定をしていた。結果としてB国は5枚のイエローカードを受け，後半30分にはボレー選手が退場処分となってしまった。…しかし，そんな逆境に打ち勝ち，リーグトップのA国相手に1－0で勝利をあげることができたのだ。

◆事実のみを伝える文章に直してください。

【練習問題2】次の文は事実ですか，意見ですか？　事実には○，意見には△を入れてみましょう

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　自分の答え　班の答え

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| (1) 話によると，彼は京都に住んでいたということだ。 |  |  |
| (2) 函館の街並みは美しい |  |  |
| (3) ガリレオは地動説を唱えた |  |  |
| (4) あの国の言葉はきれいな言葉です |  |  |
| (5) 地球には重力があります |  |  |
| (6) リンカーンは最も偉大なアメリカの大統領です |  |  |
| (7) 少子化の主な原因は働く女性の増加である。 |  |  |
| (8) これが最良の方法でした。 |  |  |
| (9) 新幹線は1965年に開通した（正しくは1964年） |  |  |

（参考：木下是雄著『理科系の作文技術』）

------------------------------　　　　　　振り返り　　　　----------------------------------

このワークを通して、自分の考えが深まったり変わったりしたことを書きましょう。また本時のねらいについて、達成度を自己評価しましょう。

|  |  |
| --- | --- |
|  | 「本日の目標」についての自己評価達成できた概ね達成できた達成できなかった |